

彦山川流域まちづくり(故郷の川を活かした地域づくり)



風治八幡宮川渡り神幸祭

<活動内容>

「風治八幡宮川渡り神幸祭」は昭和40年代には過疎化の進行による担ぎ手不足から、神輿を台車に乗せて運んでいた。本会は「神輿を担ぐことを田川復活の起爆剤としよう」との合言葉のもと、昭和50年に本会が設立。担ぎ手は設立当初30名程度だったが、現在100名を超えるようになり、更に市内各地区の山笠が3基から11基に増えたことにより、観客も開催の両日で20万人規模の福岡県を代表する祭にまで成長した。また、荒廃森林整備等の河川環境活動も学生や流域の住民が連携して実施。



河川環境活動(荒廃森林整備)

活動主体

風治八幡宮 川渡り神幸祭 みこしをかつぐ会

対象となる社会資本

彦山川番田河原

※管理者:国土交通省 九州地方整備局 遠賀川河川事務所